

# 滋賀県衛生科学センターだより

No.22

2016年8月

編集発行 滋賀県衛生科学センター  
〒520-0834 大津市御殿浜 13-45  
Tel 077-537-3050 Fax 077-537-5548  
e-mail: [eh45@pref.shiga.lg.jp](mailto:eh45@pref.shiga.lg.jp)  
HP: <http://www.pref.shiga.lg.jp/e/ef45/>

## 所長に就任して

平成28年4月1日付で、所長に、就任致しました苗村でございます。所長就任は、平成20年度から21年度にも、当センターの所長をしておりますので、2回目となります。前回は、健康危機管理体制の充実に努め、新型インフルエンザ発生時にも、職員の多大の尽力のおかげで、必要な役割を果たすことができました。

今回は、当センターが抱える次のような課題について、取り組みたいと考えています。

- ① 精度管理の充実と研究活動の促進
- ② 健康・感染症情報の内容の見直しと効果的な提供の促進
- ③ 疫学解析プロジェクトチームの運用の拡大
- ④ 人材の育成・確保
- ⑤ 保健所、市町行政機関等との連携関係の促進
- ⑥ 滋賀県の地方研究機関との連携の推進
- ⑦ 国立感染研・衛研、他の自治体の地方衛研、大学との連携・協力の推進
- ⑧ 建物・施設設備の老朽化対策や高額検査機器の新規導入・更新
- ⑨ 業務の重要性の認識とそれに見合う職階ポストの確保
- ⑩ 職員のワークライフバランス（WLB）の充実

このような課題への取り組みに当たっては、

- ① 住民目線を大事にし、声なき声を聴き取る。
- ② 関係機関、団体等との共働・協力を促進する。
- ③ 効果的な情報の発信に努める。

をモットーにしたいと考えています。

このセンター便りを通じて、多くの関係者の皆様とのコミュニケーションが深まることを期待しています。ご指導・ご協力の程よろしくお願いいたします。

滋賀県健康福祉部理事  
衛生科学センター所長

な むら みつ ひろ  
苗 村 光 廣

## 蚊媒介性感染症（蚊の生息調査）

### 1. 蚊媒介性感染症について




蚊媒介性感染症は病原体を保有する蚊によって感染する感染症の総称です。デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、ウエストナイル熱および日本脳炎などがあります。日本では2014年に東京都の代々木公園を中心としてデング熱の集団発生がありました。また、ジカウイルス感染症は、昨年から中南米で大流行しています。

ジカウイルス感染は、世界保健機関（WHO）により両側性弛緩性運動麻痺等を呈するギランバレー症候群との関連性が明らかにされており、また、米国疾病予防管理センターも妊娠中の母体から胎児への垂直感染による小頭症の原因と結論付けています。今年8月に流行地

ブラジルで開催されるオリンピック・パラリンピックでのジカウイルスの拡大のリスクは低いとされていますが、WHO では妊婦の流行地への渡航はすべきでない、同時に流行地へのすべての渡航者に厳重に防蚊対策を奨励しています（2016. 6.16 現在）。

デング熱やジカウイルス感染症を媒介するヒトスジシマカは、日本のほとんどの地域に分布しています。これらの感染症はワクチンや特異的な治療薬はなく、国内で発生した場合は**蚊に刺されない**防蚊対策をすること、**蚊を増やさない**発生源対策をすることが重要です。

## 2. 日本に生息する主な感染症媒介蚊

	ヒトスジシマカ	コガタアカイエカ	アカイエカ
蚊の種類			
媒介ウイルス	デングウイルス チクングニアウイルス ジカウイルス	日本脳炎ウイルス	ウエストナイルウイルス
吸血時間帯	昼間	日没後	夜間

写真：国立感染症研究所昆虫医科学部ホームページ

## 3. ヒトスジシマカの発生源と対策

蚊の幼虫（ボウフラ）は、身近な水たまりに発生します。また、成虫は、低木の葉の裏側や茂みの中などに潜伏しています。

植木鉢やプランターの受皿、雨水マス、古タイヤ、空き缶など家の周りの水たまりをなくすことや、やぶや草むらの草刈りなどが効果的です。



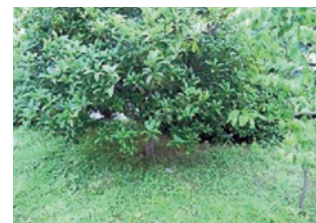
古タイヤ



雨水マス



植木鉢の受皿



蚊の多い茂み

## 4. 蚊に刺されないためには

屋外では、皮膚が露出しないように長そで長ズボンを着用したり、裸足でのサンダル履きを避けたりしましょう。虫よけスプレーも効果的です。また、むやみに草むらに立ち

入らないことも大切です。屋内では、網戸や扉の開閉を極力減らし、屋内への蚊の侵入を避けましょう。また家庭用殺虫剤の使用や、蚊帳の利用も効果的です。

## 5. 蚊の生息調査

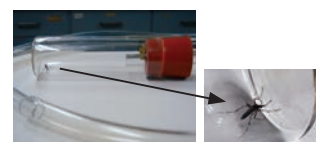
当センターでは、2015年7月から9月に県内で蚊の生息調査とウイルス保有調査を実施しました。採集した蚊は86%がヒトスジシマカでした。また一番多く蚊が採集された場所は、水際に木がうっそうと生えている場所でした。採集した蚊からデングウイルスやウエストナイルウイルス遺伝子は検出されませんでした。

今後、デングウイルスやジカウイルスの国内侵入時に備えて、蚊の多く発生する地点の把握や蚊の対策についての啓発をすることが重要であり、引き続き今年度も調査を実施しています。

参考文献：デング熱・チクングニア熱等蚊媒介感染症の対応・対策の手引き  
国立感染症研究所昆虫医科学部ホームページ



人囀法での蚊の採集



吸血管に採集した蚊

# 輸入農産物の残留農薬検査

## はじめに

食の安全・安心については、健康の維持増進に直接に関係するため多くの方が高い関心を持ち不安を感じているテーマです。中でも、県政アンケート調査結果に示されるとおり（図1）、特に「輸入農産物の残留農薬」に不安を感じる人の割合が高くなっています。このため、滋賀県では、県内のスーパーマーケットで販売されている輸入農産物（加工品も含む）等を買って、衛生科学センターで残留農薬等の検査を行い、県のホームページ等で検査結果をわかりやすく公表することにより、輸入農産物等に対する安心の向上につなげる事業を実施しています（買上げは、滋賀県食品安全監視センターが実施）。ここでは、平成27年度に実施した輸入農産物の残留農薬検査結果について説明します。

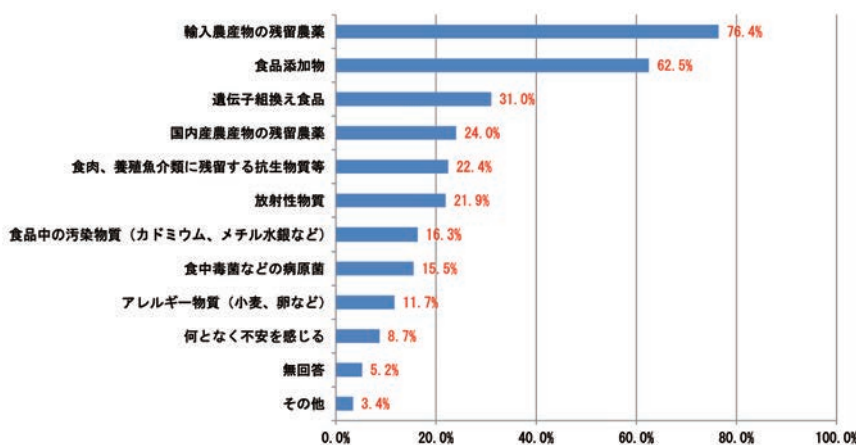


図1. 「食の安全・安心」に関するアンケート結果

実施時期：平成26年度  
対象者：県政モニター 398人

食品に対して特に不安を感じる項目  
(回答チェックは3つまで可、n=767)

## 農薬の検査

平成27年度は、野菜等66検体、ねぎ類2検体、果実32検体について、それぞれ、67、60、50種類の農薬を検査しました。検査した農薬は、妥当性評価ガイドライン<sup>\*</sup>に適合したものです。これらはその農薬についての分析方法の真度（試料に農薬を添加し、評価する分析方法で分析して、添加した農薬のうち回収される農薬の割合）や精度（繰り返して試料に農薬を添加し、分析してその回収される量のばらつき）などが良好であり、信頼性の高い検査結果が得られる農薬です。農薬の分析は、農産物から農薬を抽出・精製しても残留する夾雑成分の妨害を受けることなく、微量の農薬を測定できるガスクロマトグラフ質量分析計（GC-MS/MS）や液体クロマトグラフ質量分析計（LC-MS/MS）という機器を使用しました。

<sup>\*</sup>平成22年12月24日付け厚生労働省医薬食品局食品安全部長通知

「食品中に残留する農薬等に関する試験法の妥当性評価ガイドラインの一部改正について」

## 検査の結果

図2には産地別の検体数および農薬が検出された件数を示しました。産地は多い順に中国35検体、アメリカ17検体、タイ9検体、ニュージーランド5検体、チリ5検体と続きました。検出された農薬は全て残留基準値以下であり、検出件数ではアメリカ8件が最も多く、次いでチリ3件と続きました。検査した農産物の種類別の検体数と検出件数を図3に示しました。野菜等およびねぎ類での農薬の検出頻度は、5検体/68検体でしたが、果実は15検体/32検体であり、果実から多くの農薬が検出されました。特にブルーベリーは7検体/8検体の頻度、ぶどうは3検体/4検体の頻度、グレープフルーツは2検体/2検体の頻度で農薬が検出され



ました。表1には、農薬が検出された検体の検出農薬の種類などについて記載しました。殺虫剤は農薬名を赤字、殺菌剤は青字で表記しました。殺虫剤は、ホスメット、クロルピリホスやマラチオンといった有機りん系農薬が多く検出されました。殺菌剤では、酸アミド系であるボスカリドやストロビルリン系であるピラクロストロビン、アゾキシストロビンが多く検出されました。

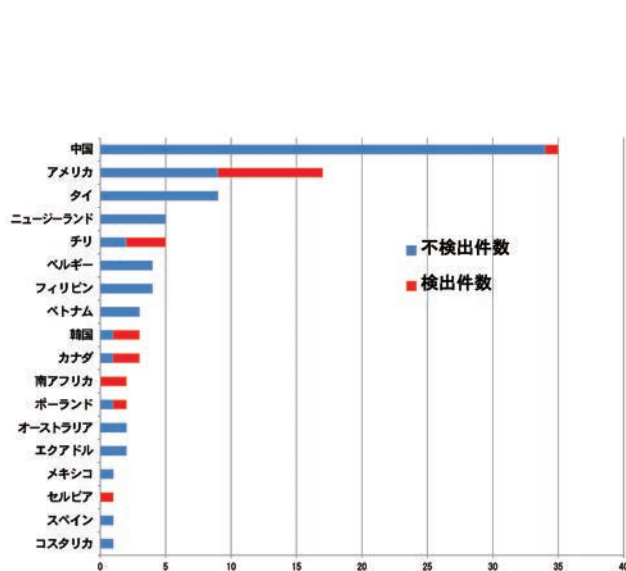


図2. 産地国別の検体数と検出農薬

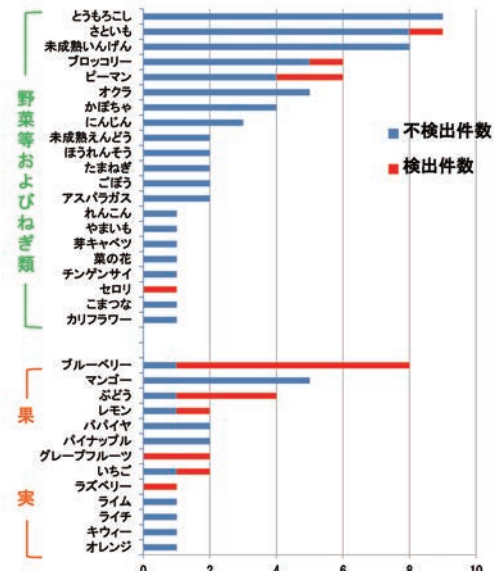


図3. 農産物の種類別の検体数と検出農薬

表1. 検出農薬の種類

食品の種類	輸入国	検出された農薬
野菜等 ねぎ類	さといも	中国
	ブロッコリー	ポーランド
	ピーマン	韓国
	セロリ	アメリカ
果 実	ブルーベリー	アメリカ、チリ、カナダ
	ぶどう	アメリカ、チリ
	グレープフルーツ	南アフリカ
	いちご	アメリカ
	レモン	アメリカ
	ラズベリー	セルビア

## おわりに

滋賀県では「食の安全・安心の取組」や「食品の試験検査」として輸入や県内産農産物の残留農薬検査結果や広域流通食品の食品添加物検査結果などもホームページで公開しています。ぜひ一度ご覧になっていただければ幸いです。また、当センターでは、平成28年度にガスクロマトグラフ質量分析計（GC-MS/MS）を性能の良好な機器に更新しました。今後は、より多くの農薬の検査が可能となり、更に食の安全・安心の確認ができることとなるでしょう。

## 《参考》

<http://www.pref.shiga.lg.jp/e/shoku/shoku/09top/anzenanshin.html>  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/e/shoku/shoku/09top/shikenkensa.html>